

# 三川町防災ガイドブックの活用をお願いします

本町ではこのたび「三川町防災ガイドブック」を作成しました。ガイドブックでは、町民の皆さまに日ごろから取り組んでいただきたい災害への備えや、災害の発生前に取るべき行動などを紹介しています。また、お住まいの地域や家族構成などに応じて、各家庭で必要となる対応をガイドブックに書き込むことで、「わが家の手引き」として活用してもらつたことを目的としています。

ここでは、ガイドブックを「わが家の手引き」として完成させるための手順を紹介いたします。



▲三川町防災ガイドブック(2021年作成版)  
この広報紙と一緒に町内の全世帯に配布しました。お手元に用意してご覧ください。

## 災害時に必要なものを書き足す(ガイドブックP2~3)

●ローリングストックするものを確認する  
ローリングストックは、普段食べているものや使っている日用雑貨品を買い置きしておき、災害時の食料や物資の不足に備える手法です。  
ガイドブックには、ローリングストックに適した食料や日用雑貨品の例を記載しています。

【P3】

書き足すものの例  
栄養補助食品や栄養補給できるゼリー飲料、レトルトの離乳食や介護食、カセットコンロとガスボンベ、ビニールロープ、虫よけスプレー、ガムテープ、入れ歯安定剤、非常用簡易トイレなど

●非常用持出品を確認する  
非常用持出品は、「災害が起きたときに持ち出すもの」をイメージして準備しましょう。  
ガイドブックには一般的な家庭で必要となるものを記載しています。

【P2】

(補足)あると便利なもの「カイロ」  
カイロは暖を取る以外にもさまざまな用途があります。  
例. 乳幼児用のミルク作り  
お湯がないとき、ペットボトルの水(必ず未開封の物を使う)を温めてミルク作りに使用できます。

書き足すものの例  
ライター、マッチ、うちわ、スリッパ、カッターナイフ、携帯用アルコールジェルなど

⇒各家庭の状況に応じて他にも避難先で必要となりそうなものを書き足しましょう。

## 【特集2】三川町防災ガイドブックの活用をお願いします

### 水害時に取るべき行動を書き足す(ガイドブックP5~6、P13~15)

#### ①自宅の浸水の深さを確認する

ガイドブックP13~15ページに、本町の洪水ハザードマップを地区別に掲載しています。自宅のある場所が何色になっているかを確認したら、5ページにその色を書き込み、自宅の浸水の深さをイメージしましょう。

【P13~15】



※ガイドブックに掲載しているハザードマップは、平成31年3月に全世帯に配布したものと同じものです。

自宅の場所の水深の色を書き込むと、上のイラストでどれくらいの浸水深になるのイメージできます。



#### ②わが家の避難先を決める

①で自宅がどれくらい浸水するかイメージしたら、「避難先の検討方法(洪水ハザードマップの自宅の色)」の表にしたがい、わが家の避難先を家族で話し合しましょう。このとき、避難先の候補は1つだけでなく、必ず2つの候補を決めることとします(※)。

候補は「自宅の2階」「浸水しない地域の親せきなどのお宅」「町の指定避難所」「浸水しない場所での車中避難」と、複数の候補を挙げ、それぞれの良い点・悪い点を確認し、わが家にとって最善の避難方法を家族全員で検討しましょう。



【P5~6】

#### 記入例

③避難先を検討しておきましょう  
④避難先の検討方法(洪水ハザードマップの自宅の色)

自宅の色	黄色の地域	青色の地域	緑色の地域
避難すべき必要はありません	必ず避難	必ず避難	必ず避難

どこに避難するか決めておきましょう

家族で検討して決めた避難先2箇所を記載しましょう。

第1候補 東郷小学校  
第2候補 湯野浜の親せき宅

## ※避難先の候補を2つにする理由

### ①いざというときに慌てないために

水害時にいざ避難情報が発令されると、慌てて気が動転してしまうかもしれません。そこで、あらかじめ複数の避難先を決めておくことで心に余裕ができ、安全な避難行動を取ることができます。

### ②町の指定避難所の収容人数には限りがある

町の指定避難所には多数の避難者が集まることから、全員を収容できない場合が考えられます。また、感染症対策についてもリスクをゼロにすることは不可能です。そのため、指定避難所への避難が「最善」ではない場合を想定することも必要です。

## (防災コラム)「逃げ遅れ」と「自宅での避難」のちがひ

水害時の報道で、自宅からボートやヘリコプターで救助されている様子を見たことがある方は多いことと思います。これらの多くは、避難しなかったことで逃げ遅れて自宅に取り残されてしまったケースであり、想定される浸水の深さを理解し、準備を整えて水が引くまで自宅の2階に避難(いわゆる「在宅避難」や「垂直避難」)するケースとは根本的に異なります。

本町の多くの場所では、浸水時間が12時間から24時間と想定されています。しっかりと準備をしておけば自宅も一時的な避難先になるということを理解し、選択肢の一つとして検討しましょう。

【特集2】 三川町防災ガイドブックの活用をお願いします

○マイ・タイムラインがあると  
 ・これから起こることが予測できる  
 ・予測ができるから準備ができる  
 ・複数の避難先が決まっている  
 ・避難するタイミングが決まっている  
 →余裕をもって安全に避難ができて安心



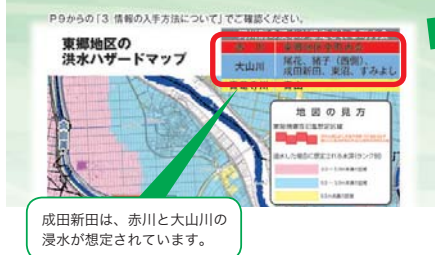
○マイ・タイムラインがないと  
 ・これから起こることが予測できない  
 ・何を準備すればよいか分からない  
 ・避難先やタイミングが分からない  
 ・避難できずに逃げ遅れてしまう  
 →最悪の場合、家族全員の命が危険

例. 成田新田にお住まいの方が記入する場合

①浸水が想定される河川を確認する

洪水ハザードマップ(ガイドブック13~15ページ)の右上の表を見ながらお住まいの地域で浸水が想定される河川を、書き込みましょう。

【P14】



②避難を開始する警戒レベルを決める

警戒レベル3「高齢者等避難」は、避難に時間を要する方(高齢の方、障害のある方、乳幼児)とその支援者が避難を開始するタイミングです。それ以外の方は、警戒レベル4「避難指示」で避難を開始します。

【P7】 記入例

命を守る避難行動計画(マイ・タイムライン)

3日前 警戒レベル 1

2日前 警戒レベル 2

半日前 警戒レベル 3

避難者等避難 警戒レベル 4

避難指示 警戒レベル 5

緊急安全確保

発生 発生

わが家で 警戒レベル 4 避難です

「大山川」を書き込みます。  
 「大山川」を記入する欄に「大山川」を書き込みます。  
 わが家で浸水が想定される河川は、赤川、大山川です  
 ※赤川は町内全域が避難の対象となるためあらかじめ記載してあります。  
 避難を開始する警戒レベルを書き込みます。  
 わが家で 警戒レベル 4 避難です

おわりに  
 ガイドブックではこのほか、災害時の情報収集の方法や、地震対策、町が準備する避難先について記載しています。各家庭でご一読いただき、万一の場合に備えて活用をお願いします。  
 問合せ先 役場総務課 危機管理係  
 ☎ 35-7010

わが家の防災メモを書き足す(ガイドブック裏表紙)

記入例

わが家の防災メモ

火事・救急 119番 警察 110番 消防 171番

緊急連絡先

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
三川町中継	0235-66-3111	三川町上下水道部	0235-23-7731
総務課	0235-66-3113	東三川センター	0230-178-8666
総務課 三川駐在所	0235-66-2210	三川中継所	0235-66-3115
総務課 三川分署	0235-66-3021		

近所先・親戚などの連絡先

株みかわ 0235-66-△△△△  
 叔父・叔母宅 0235-22-△△△△

××医院 0235-23-△△△△

近所の携帯電話番号(時刻表に載っていない場合はお問い合わせください)

父 090-△△△△-△△△△  
 母 080-△△△△-△△△△

●わが家の防災メモ  
 ガイドブック裏表紙には、お勤め先や親せき、かかりつけ医など、災害のときに必要となる主な連絡先と、家族の携帯電話番号を書き込みましょう。  
 最近では、スマートフォンや携帯電話が普及したことで、紙の電話番号簿を作っていないご家庭も多いことと思います。  
 しかし、災害時は「水害時に水没させた」「地震のとき慌てて避難して失くした」「落として壊れた」「バッテリーが切れたが充電して充電できない」など、スマートフォンや携帯電話を使用できなくなる場面が考えられます。こうした場合に備えて、紙の電話番号簿を作っておくことも重要です。

【わが家の手引きとするために手順④】

マイ・タイムラインを書き足す(ガイドブックP7~8)

●「命を守る避難行動計画(マイ・タイムライン)」を確認する

水害は、気象情報を確認することで、発生の可能性をある程度予測することができます。水害が迫っているときに安全かつ速やかに避難するためには、避難が必要となるタイミング(避難情報が発令された時)から逆算して、その時々取るべき行動をあらかじめ決めておくことが重要です。  
 ここでは、ガイドブック7~8ページに自分や家族が取るべき行動を書き足しましょう。

【P8】

には各家庭に必要なことを書き足しましょう。

情報の入手

自身や家族の行動

避難の準備を始める

避難先情報が出たらすぐに避難!

命を守る避難の行動をとる

避難完了に必要な時間を確認する

避難完了に必要な時間を確認する

ガイドブック6ページで決めた避難先への移動時間を書き込みましょう。  
 悪天候の中での移動は、道路の冠水、通行止めなどの影響で通常よりも時間を要することが予想されます。そのため、自宅以外の避難先に移動する場合は、通常時の2倍を目安に書き込みましょう。

※この欄には、6ページに記載した2つの候補のうち所要時間が長い方を記載しましょう。  
 例: 第1候補: 東郷小学校まで 通常は徒歩で10分の場合 →2倍の時間は20分  
 第2候補: 鶴岡市湯野浜の親せき宅まで 通常は車で20分の場合 →2倍の時間は40分  
 →所要時間の長い湯野浜の親せき宅までの移動時間40分を書き込む

【わが家の手引きとするために手順③】

「スイッチ」  
 大雨が近づいている時は、テレビやラジオ、インターネットなどのニュースで必ず事前に注意を促します。「東北に台風が接近」、「東北の日本海側・東北南部で大雨」などのキーワードが出たら、家族全員で「心のスイッチ(災害が起きるかも)という意識を持つ」を入れます。  
 ここで重要なのは、「人任せにしない」ことです。「いざとなったら誰かが知らせてくれるだろう」とは考えず、自分から積極的に情報を収集する習慣を付けましょう。

「スイッチ」のタイミングを決めましょう

ON

「スイッチ」  
 近年は、短時間で激しい雨が降るケースが多くなっており、水害が迫っているときに「まだ大丈夫」や「今まで大丈夫だったから」といった油断は禁物です。  
 そのため、いざというときには、このページで説明したマイ・タイムラインに従い、「避難スイッチ(最悪の事態が迫っているからすぐに避難!）」という意識を持つ」を入れるように心掛け、避難情報が発令されたら必ず避難することをお願いします。

マイ・タイムラインが完成したら